

秋山真之 海軍軍人。海軍きっての戦略家として<日露戦争>の海戦を参謀したが、早世した。

あきやまさねゆき

明治維新・1868 = 愛媛県松山藩で、徒目付の五男という余計物に生まれる。_(**のちの陸軍大将**)秋山好古の弟で、

寺に出されそうになるところを、兄の秋山好古に救われて、以後、_**その強い影響下に育ち、**

明治6年政変 1873 = 5歳 :

飢鬼大将で奔放な小学校時代を送る。

西南戦争・1877 = **9歳** : 兄・好古が東京の士官学校に入学。

琉球処分・1879 = 11歳 : 松山中学校に入学し、同級の正岡子規と親友になる。

明治14年政変 1881 = 13歳 :

岩倉具視没・1883 = 15歳 : またも兄好古に助けられ、子規の後を追って上京し、神田の共立学校に入学。

秩父事件・1884 = 16歳 : 子規に誘われて、大学予備門に入学。文学青年であったが、

帝国大学始・1886 = **18歳** : 兄への負担をこれ以上かけたくないと、_**中退して海軍兵学校に入学。**

帝国憲法発布 1889 = 21歳 :

帝国議会始・1890 = 22歳 : **海兵17期を首席で卒業。練習艦でトルコへ遠洋航海する機会を得、**

足尾鉞毒始・1891 = 23歳 : 帰国。

大本教・1892 = 24歳 : 海軍大改革により、海軍少尉に任じられる。

郡司千島探検 1893 = 25歳 : イギリスで建造中の巡洋艦{吉野}を受け取りに行く任務を与えられ、

日清戦争始・1894 = 26歳 : 帰国。直後に起きた***<日清戦争>**で、**軍艦{筑紫}**の航海士として警戒任務に当たり、中尉に昇進、

日清戦争終・1895 = **27歳** : **勝利に導く一翼を担って帰還し、大尉に昇進。郷里松山で休暇をとって、子規と再会、**

白馬会・1896 = 28歳 : 横須賀水雷団を経て、_**軍令部謀報課課員となり、**

八幡製鉄始・1897 = 29歳 : 選ばれて、_**最も若くしてアメリカに留学。世界的な海軍戦術家マハン大佐を訪れて教えを乞い、**

子規句歌革新 1898 = 30歳 : ***米西戦争を観戦する機会を得、その後最も優れたものと評される報告書にまとめて、海軍司令部に提出、**

Bushidou・1899 = 31歳 : 特に許されてニューポートの海軍大学校で戦術講座を受け、

ビア/国産化・1900 = 32歳 : イギリスに駐在した後、

田中正造直訴 1901 = 33歳 : 帰国。軍務局課員となり、子規を訪ね、また体調を崩して入院後、参謀として呉軍港の旗艦{常盤}に着任、司令長官の東郷平八郎・参謀長の島村速雄の信任を得、少佐に昇進。

教科書疑獄・1902 = 34歳 : **子規との最期の別れをした後、海軍大学校教官をに任命された。**

日比谷公園・1903 = 35歳 : 結婚。ロシアとの間が険悪となり、再び参謀となって佐世保艦隊司令部に着任、

日露戦争始・1904 = **36歳** : **東郷率いる第一艦隊の作戦参謀として、旗艦{三笠}に乗り組み、出陣、**

日露戦争終・1905 = 37歳 : ***<日本海大海戦>をはじめ、各海戦の作戦を指揮して、勝利へと導いた。戦後、海軍大学校教官に戻る。**

韓国反日暴動 1907 = 39歳 : 海軍大演習で中央審判員を務めた際、独断専行で非難を浴びるが、判定の正確さで逆に評価が高まり、

アソビ 創刊・1908 = 40歳 : {三笠}の副長を経て、三等巡洋艦{秋津洲}の艦長となり、大佐に昇進。

以後めまぐるしく乗艦が変わった後、

韓国併合・1910 = 42歳 : 一等巡洋艦{出雲}の艦長を拝命、教育にも関心を持って「鬼が島の桃太郎論」なるものを説き、巡洋戦艦{伊吹}艦長、第一艦隊参謀長を経て、海軍軍令部参謀となり、

明治天皇没・1912 = 44歳 :

大正政変・1913 = **45歳** : **少将に昇進し、**

第一次大戦始 1914 = 46歳 : 八代海軍大臣の要請で_**海軍省軍務局長に就任。**

民本主義・1916 = 48歳 : **辞任し、大戦視察のため、ヨーロッパに派遣されたが、体調思わしくなく帰国。**

ロシア革命・1917 = 49歳 : ***中将に昇進するものの、**

本格政党内閣 1918 = 50歳 : 腹膜炎を併発して_**没した。**